



あいさつは、 人と人とのふれあい 心と心を通じ合わせるきっかけ



ぼくにもできる

小さくても「大切なこと」

笠郷小学校 小竹 蒼之介

「おはようございます。」

朝、玄関を開けると家の向かいで畑仕事をしているおじいさんにあいさつをする。おじいさんはにっこり笑い、

「おはよう。」

と、あいさつを返してくれる。帰りにも、

「こんにちは。」

と、あいさつをする。

「はい、おかえり。」

今日はちょっと早口で忙しいのだ。聞きたいことがあったけれど、また明日にしよう。

ランニング中、すれ違う近所のおばさんにもあいさつをする。「元気やね。がんばれ。」

と、声が返ってくる。僕は、うれしくなって、ちょっと走るスピードをあげた。

僕は、地域の方にあいさつすることを大切にしています。前から、同じ地域に住んでいるのに話す機会が少ないことにさみしさを感じていました。だから、あいさつを交わすことで仲良くなれると思う、自分から声をか

けるように心がけています。

僕の中であいさつを大切にしたい理由がもう一つあります。それは、みんなが元気で暮らすための助け合いが、僕の交わすあいさつでもできる、という思いがあるからです。こう思うようになったきっかけは、僕の後悔した経験にあります。

いつもあいさつを交わすおじいさんが、あまり元気がないと感じていた次の日、体調を崩して入院をしたという話を母から聞きました。いつもはあいさつの後、

「今日の学校どうやった。」と声をかけてくれていたのですが、その日はおじいさんのいつものようなパワーを感じませんでした。数日でおじいさんは元気になって帰ってきたことを知ったのですが、あの時に、「大丈夫ですか。」

と、どうして言えなかったのだろう…。僕はとても後悔しました。僕のことを心配してくれたり、僕のためにおもしろい話をしてくれたりするおじいさん。僕も、おじいさんの変化に気づいてあげなくてはと思うようになりました。

僕の地域には、他にもたくさんのお年寄りの方が住んでいます。僕があいさつを交わすことで、体調の異変など、小さな変化を見つけられるかもしれません。お年寄りで独居の方もいらっしゃいます。僕があいさつを交わすことで、何かその方たちの助けになるかもしれません。ちょっと大きなことですが、僕にも毎日できる大切なことだと思います。

笠郷小学校でも、「あいさつ」を宝ものとして大切にしています。あいさつから広がる楽しい会話や、その会話から感じる人の温かさ。それを地域の方とも交わしながらの健康観察。僕なりに思いついた「大切なこと」です。

これから先、ますます高齢化が進みます。地域のみんなで支え合い、助け合いながら暮らしていくために、何気ない日常から自分にできることをもって探していきたいです。小さいけれども無理なくできることを積み重ね、みんなが元気に暮らせる地域に、僕も役立っていきたいと思えます。

今回は、十二月の人権擁護推進大会で発表予定だった人権作文をご紹介します。

あいさつは人と人をつなぐ基本だと言われます。しかし、いつでも、どこでも、誰でも、あいさつが実践できているかと問われると、自信の無い人もいるのではないのでしょうか。彼の作文には、あいさつを通して、自分が大切にされていることに気づき、自分もあいさつを通して相手(身近な人・地域の人)を大切にしたいと考え、実践していることが書かれています。これは人権という『相手の立場に立って考え、自分にできることを実践する』ことそのものです。あいさつは、初めて交わす相手には、少なからず『勇気』がいります。そして、毎日『継続』することも、骨の折れることです。お互いの存在を認め合い、確認し合い、心地よい居場所を作るためのあいさつが『温かさ』を生んでいます。

小さな積み重ねが社会全体を明るく、身近な人を幸せにすることに繋がっているのだと、改めて考えるきっかけとなりました。